

平成28年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
野外活動研修会

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

宿泊体験活動実施校が野外活動の指導を行う中で効果的な指導を行い、野外活動における当初の目的を達成するために、実地踏査や実習をとおして技術や指導法を習得する。

2. 事業の概要

（1）期日

- 第1回 4月 9日（土）日帰り
- 第2回 4月29日（金）日帰り
- 第3回 6月 5日（日）日帰り
- 第4回 7月10日（日）日帰り
- 第5回 10月 1日（土）～2日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

宿泊体験活動を国立吉備青少年自然の家で行う学校の引率者・各回20人程度

② 参加人数

- 第1回 8人
- 第2回 13人
- 第3回 12人
- 第4回 2人
- 第5回 13人

（3）講師等

第1回～第4回

国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

第5回

プロジェクトアドベンチャージャパン 杉村 厚子 氏

（4）企画・運営のポイント

① 全体について

全5回を計画し、4回までは利用団体の指導者が参加しやすいように、一部の研修だけでも参加可能とした。そして、第5回にはプロジェクトアドベンチャー（以下「PA」という。）の手法や理論を学ぶ研修として、プロジェクトアドベンチャージャパン（以下「PAJ」という。）のスタッフを招聘して実施した。

② 第1回～第4回について

ア. 1日の研修の中に、効率的に事前準備及び指導、安全管理も含めて行えるような活動プログラムを構成し、次の活動につなげる意義や方法についても扱った。

イ. カッター活動を共通内容として、2コースの内容を設定した。

ウ. 指導者が、事前にプログラムの内容を体験することで、参加者の思いや時間の流れ、指導法や声かけのポイントを事前に把握し、実際の活動に生かすことができるようにした。

エ. ロングウォークのコースは、自転車で実地踏査することで短時間に休憩場所や行程をつかむことができるようにした。また、迷いやすいポイントも地図と照らし合わせて確認できるようにした。

オ. イニシアチブゲームでは、指導者が、実際に体験して感じたことや思ったことを指導に生かす際のポイントや、小学校長期宿泊体験活動の導入で行う際の補助としての姿勢や指導時の注意点を伝えるようにした。

③ 第5回について

所内にあるPA施設（ローエレメント）やPAグッズ（人間関係作りの指導に役立つ道具）を使用しながら、PAの手法や理論を学ぶ場を設定した。

3. 活動の内容等

（１）日程

① 晴天時

Aコース		Bコース	
9:00	受付	9:00	受付
9:30	研修1 カッター活動	9:30	研修1 カッター活動
11:00	研修2 野外炊事指導ポイント	11:00	研修2 野外炊事
12:00	昼食	14:00	研修3 イニシアチブゲーム プログラム相談
13:00	研修3 ロングウォーク・オリエンテーリング・ウォークラリーコース実地踏（荒天時は自動車に対応）	16:00	解散
16:00	解散		

② 第5回

10月1日(土)		10月2日(日)	
9:30	受付	6:15	起床・準備
10:00	開会式	7:15	朝のつどい
10:30	演習・講義①	7:30	朝食
12:00	昼食	9:00	演習・講義④
13:00	演習・講義②	12:00	昼食
17:15	夕べのつどい	13:00	演習・講義⑤
17:30	夕食	15:00	閉会式
18:30	演習・講義③		
20:00	入浴		
21:00	懇親会		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【研修1 カッター活動】



【研修2 野外炊事】



【研修3 イニシアチブゲーム】



【PAJ 演習・講義①】



【PAJ 演習・講義②】



【PAJ演習・講義④】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 実際に体験できて良かった。実際に指導する際に、活動の見通しがもてた。学校職員がたくさん参加できて、大変有意義な活動となった。
- ② 子どもたちへの声かけの仕方を教えてもらった。「体験学習法」の効果的な回し方について、たくさんのヒントをいただいた。

- ③ 実際に様々な体験ができ、指導のポイントがわかりやすかった。時には、声かけを我慢して見守ることも大切だと思った。
- ④ 大変考えられたプログラムで動きやすかった。どんな仕事・行事でも、参考となるプログラムだった。
- ⑤ ファシリテーションやPAについて学べて良かった。今後の参考となった。
- ⑥ PAとは、こういったものなのかを体感することができ、とても満足した。次回、指導という面を深く学びたいと思えるようなプログラムだった。

(3) 成果

- ① 参加者が実際に体験してみることで、参加者目線で感じたことを指導者としてどのようにいかしていけば良いのかを、気づき考える研修となった。時として、声かけでなく、見守ることも大切だと気づいていただけたのは、成果であった。
- ② 活動の見通しをもたせることにより、それぞれの活動を進める上でのポイントやリスクマネジメント等を参加者の体験を通して、わかりやすく学んでいただくことができた。
- ③ 非常に有意義な研修だったという参加者の感想の中に、更に次の学びへの意欲をかきたてる内容があったことも、大きな成果であった。

(4) 今後の課題

- ① 利用団体の指導者が参加しやすいようにと、日曜日の開催を多くした。ところが、翌日の勤務に影響するので、土曜日開催が良かったとの声が多かった。今後は、研修の設定日や更なる広報の仕方を検討していきたい。
- ② 今回は、参加者の野外活動・体験活動に関する知識の理解及び技能を更に高めてもらえるようなプログラム構成や講師を招聘した研修を行った。今後は、更に参加者の学びの意欲を発展させることのできるような内容を考えていきたい。

担当：企画指導専門職 徳永 正樹